

2020年8月11日（火）、20日（木）

ボランティア入門講座を、オンラインで開催しました

ボランティア支援室では、ボランティア活動に初めて触れようとする学生を主な対象として、ボランティア入門講座を、オンライン形式で開催しました。

「ボランティアとはなにか？」ということについて、楽しく分かるようになることを目指し、クイズを出題しながら参加者に考えていただく場面を、今年度初めての試みとして創出しました。

その他、講師自身のボランティア活動体験の紹介や、新型コロナウイルス感染拡大防止を図る中で、いまできることとは何だろうか？ということについて問題提起を行いました。

・日時：2020年8月11日（火） 10:30～12:30

8月20日（月） 14:00～16:00

・会場：オンライン会場

・講師：日比野 勲（東洋大学ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター）

・参加者：11日：8名、20日：9名

私は第2回の8月20日の日程でボランティア入門講座に参加させていただきました。講座は全員の自己紹介から始まり、和やかな雰囲気ですスタートしました。講座に参加している人は、ボランティアをしてみたいけれど何をしたらよいかわからなかったという人から、ボランティア経験が豊富な人までさまざまな理由で集まったメンバーでした。私はオンライン講座に参加したのは初めてでしたが、チャット機能を使ったり反応ボタンを使ったりと受け身だけで終わらない参加型のイベントだったのでとても楽しく学ぶことができました。

まず初めに、ZOOMのチャット機能を使いみんなのボランティアに対するイメージを出しました。オンラインならではのチャット機能を使った交流は、意見を出しやすくみんなの答えの多様性がひと目でわかります。チャットには“困っている人を助ける”という言葉から、“人とつながる”、“居場所になる”という私の想像していなかった言葉まで出てきました。ボランティアの支援をするという部分だけでなく、自分がボランティアをすることで人との交流を通して新しい仲間ができ、時には今後のボランティア活動につながるようなきっかけを得られて自分の居場所となる、という新しい視野に気が付くことができました。本講座でも交流や雑談を通して一緒に活動をしていくつながりを生み出すきっかけになりました。

その後はクイズ形式で、解説とともに楽しくボランティア活動を学びました。

私は講座を通して特に心に残っていることが三つあります。一つ目はボランティア活動とは何か特別な分野や種類に特化するものではないということです。清掃、福祉、災害、オリンピックなどの種類のものだけがボランティア活動なのではなく、イベント運営のお手伝いなど他にも種類はたくさんあります。私も自分で気が付いていないだけで身近なところでボランティアをしていることに気が付きました。何からはじめれば良いかわからないという人も、難しく考えず自分の好きなことや興味のあることから気軽にボランティア活動を始められるということを知りました。

二つ目はボランティアで一番重要なことは自発性である、ということです。ボランティア活動の4原則では自発性、無償性、公共性、先駆性があるということを知りましたが、中でも自ら進んで行動しようという気持ちがボランティアでは一番大事なのです。ボランティア活動に参加する側、イベントを企画する側のどちらの立場でも、義務感をあまり抱くことなく自発性を発揮できるような場を選び、提供することが大切だと感じました。

三つ目に述べたいことは、ボランティアをする上で気を付けたいことです。ボランティアをしていると、現状をよくするためにまだ自分には何かできるのではないかと考えすぎてしまうことがあると思います。しかし、自分が無理をしてしまうと、相手もつらいと感じてしまいます。そのことを念頭に置いて、無理をしすぎないことも大事だと教えていただきました。

最近のコロナ禍では海外に行ったり大勢の人が集まったりすることはできず、思うようにボランティア活動ができないことが多いと思います。私も昨年からはボランティア支援室サポートスタッフとして多くの人から刺激をもらったので、2020年は実際に足を運んでさらに活動の幅を広げていきたいと思っていました。しかし、新しい生活様式を受け止め、家にいながらできることをしたいと思っていました。本講座もオンラインで実施していただき、新たな視野を持ちボランティアの基礎知識を習得することができました。私は、この期間をコロナが収まったときのための蓄積期間だと思い、オンラインイベントに参加したり情報収集をしたりして今だからできることを探していきたいと思います。今回のボランティア入門講座はボランティア活動を始め前、またはボランティア活動を見直すことのできる良い機会になったと思います。最後に日比野さんから教えていただいた、ボランティア活動を「手段」として社会に関わるというメッセージを忘れずに、今後も活動していきたいです。



(ボランティア支援室サポートスタッフ 宮下 亜美)